

第7章 特別支援教育

第1節 概要

県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。本答申を具体的な施策に反映させるため、第7次福島県総合教育計画の施策3、「学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壤をつくる」、においては、「インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、多様な学びの場や交流及び共同学習の充実と整備」、「個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用や引継ぎ」、「質の高い授業と合理的配慮の提供」、「医療的ケアを必要とする児童生徒の学びの場の環境整備」、「高等学校における通級による指導の充実と交流及び共同学習の推進」、「特別支援教育に関する教員の専門性の向上」等を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

また、「夢に向かってテクノチャレンジ事業」として、県内の高等部設置特別支援学校全校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。日々の学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の自立や社会参加につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「特別支援学校における就労推進支援事業」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」で

第2節 学校管理

1 児童生徒数と教職員定数

(1) 児童生徒数の推移

種別	部/年度	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
視覚障がい 特別支援学校	幼稚部										
	小学部	3	5	5	3	1	3	5	4	4	9
	中学部	5	3	4	5	8	7	6	3	4	2
	高等部	24	22	19	17	12	14	17	20	14	12
	計	32	30	28	25	21	24	28	27	24	23
聴覚障がい 特別支援学校	幼稚部	12	10	14	17	17	18	19	23	20	21
	小学部	44	44	38	32	23	34	32	29	29	32
	中学部	25	26	28	26	29	20	18	16	19	14
	高等部	22	23	28	28	28	29	30	33	20	14
	計	103	103	108	103	97	101	99	101	88	81
知的障がい 特別支援学校	小学部	529	543	551	600	623	632	664	681	712	719
	中学部	371	370	376	384	389	389	398	394	400	424
	高等部	751	803	819	812	820	821	811	849	865	862
	計	1,651	1,716	1,746	1,796	1,832	1,842	1,873	1,924	1,977	2,005

は、市町村教育委員会と連携協力の下、医療、福祉、保健、労働との関係機関と連携を図りながら、県内全ての特別な支援を必要とする児童生徒が地域において一貫した支援を受けることができる相談支援体制の整備、病気療養中の児童生徒に対する学習支援体制の構築を進めた。また、特別支援教育に関する教員に対する研修の充実と専門性の向上を図るとともに、特別支援学校の地域支援センターを中心に、センター的機能による、保育所・幼稚園及び認定こども園、小・中・高等学校への相談支援や研修支援を充実させ、地域における支援の充実を図った。さらに、教育事務所を中心として特別支援教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を果たすとともに、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じ、支援体制整備に向けた取組を行った。

「特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を開催し、本県における医療的ケアの在り方について協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（15校）に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

種別	部/年度	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
肢体不自由 特別支援学校	小学部	139	136	130	126	127	113	103	98	89	90
	中学部	70	66	71	70	71	78	84	81	68	56
	高等部	79	82	82	73	62	67	69	77	92	89
	計	288	284	283	269	260	258	256	249	235	
病弱 特別支援学校	小学部	27	33	30	29	26	26	32	24	25	22
	中学部	32	23	40	35	42	31	31	42	36	35
	高等部	37	35	36	46	52	57	47	50	48	40
	計	96	91	106	110	120	114	110	116	109	97
合 計		2,170	2,224	2,271	2,303	2,330	2,339	2,366	2,424	2,447	2,441

※1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

(2) 令和6年度児童生徒数

(R6.5.1 学校基本調査、訪問学級を含む)

部・学年	幼稚部	小学部							中学部				高等部					総計		
		1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	1	2	3	計	本科	専攻科	合計	
視覚障がい 特別支援学校	男	0	3	0	0	2	2	0	7	0	1	1	2	1	2	2	5	4	9	18
	女	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	2	3	0	3	5
	計	0	5	0	0	2	2	0	9	0	1	1	2	2	2	4	8	4	12	23
聴覚障がい 特別支援学校	男	6	2	3	2	4	4	4	19	1	1	3	5	4	2	3	9			39
	女	15	3	3	0	4	0	0	13	0	5	4	9	1	0	4	5			42
	計	21	5	6	5	4	8	4	32	1	6	7	14	5	2	7	14			81
知的障がい 特別支援学校	男		81	94	74	84	93	79	505	112	96	95	303	179	189	185	553			1361
	女		42	38	30	44	18	42	214	42	40	39	121	87	104	118	309			644
	計		123	132	104	128	111	121	719	154	136	134	424	266	293	303	862			2005
肢体不自由 特別支援学校	男		3	7	7	7	11	9	44	7	11	13	31	15	22	14	51			126
	女		10	5	7	6	5	13	46	7	10	8	25	10	14	14	38			109
	計		13	12	14	13	16	22	90	14	21	21	56	25	36	28	89			235
病弱 特別支援学校	男		1	4	1	4	3	3	16	2	7	11	20	7	10	10	27			63
	女		1	2	0	1	1	1	6	7	4	4	15	4	5	4	13			34
	計		2	6	1	5	4	4	22	9	11	15	35	11	15	14	40			97

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

(3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

種別 年度	視覚支援学校・聴覚支援学校										特別支援学校										
	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	
教員	校長	2	2	2	2	2	2	2	2	2	12	12	13	13	13	13	14	14	14	14	
	教頭・教諭	131	129	133	131	124	126	127	126	128	128	1,145	1,157	1,209	1,242	1,250	1,250	1,252	1,266	1,271	1,277
	養護教諭	4	4	4	4	4	4	4	4	4	24	24	26	26	26	27	27	29	29	29	
	兼任主任																				
	補充教員	14	8	13	12	10	15	6	7	10	13	160	150	170	189	173	154	133	155	149	150

種別 年度		視覚支援学校・聴覚支援学校										特別支援学校									
		27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
教員	講師																				
	寄宿舎指導員	25	27	28	28	28	28	29	30	29	28	34	32	31	30	28	27	27	27	29	30
	実習助手	8	8	8	8	8	8	8	8	8	24	25	27	27	27	27	27	29	29	29	29
	計	184	178	188	185	176	183	176	177	181	183	1,399	1,400	1,476	1,527	1,517	1,498	1,479	1,520	1,521	1,529
事務職員		11	11	11	11	11	11	11	11	11	51	50	51	53	53	54	53	53	57	57	57
その他の職員	技能労務員																				
	学校司書																				
	用務員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	6	7	6	6	5	5	4	4	3	3
	ボイラー技師	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0
	栄養職員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	9	9	10	10	10	10	10	10	10	11
	調理給食員																				
	技能訓練士																				
	マッサージ師																				
	運転手																				
計		6	5	5	5	5	5	5	5	4	3	16	17	17	17	16	16	15	15	14	14
合計		201	194	204	201	192	199	192	193	196	197	1,465	1,468	1,546	1,597	1,587	1,567	1,547	1,592	1,592	1,600

種別 年度		計									
		27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
教員	校長	14	14	15	15	15	15	15	16	16	16
	教頭・教諭	1,276	1,286	1,342	1,373	1,374	1,376	1,379	1,392	1,399	1,405
	養護教諭	28	28	30	30	30	31	31	33	33	33
	兼任主事										
	補充教員	174	158	183	201	183	169	139	162	159	163
	講師										
	寄宿舎指導員	59	59	59	58	56	55	56	57	58	58
	実習助手	32	33	35	35	35	35	35	37	37	37
計		1,583	1,578	1,664	1,712	1,693	1,681	1,655	1,697	1,702	1,712
事務職員		61	62	64	64	65	64	64	68	68	68
その他の職員	技能労務員										
	学校司書										
	用務員	8	9	8	8	7	7	6	6	5	4
	ボイラー技師	3	2	2	2	2	2	2	2	1	0
	栄養職員	11	11	12	12	12	12	12	12	12	13
	調理給食員										
	技能訓練士										
	マッサージ師										
	運転手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		22	22	22	22	21	21	20	20	18	17
合計		1,666	1,662	1,750	1,798	1,779	1,766	1,739	1,785	1,788	1,797

2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

(1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

障がい種別	校名	種別	幼稚部		小学部		中学部		高等部				計	
			学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数		
												学級数	児童生徒数	
視覚	県立視覚支援学校		1	0	5	9	2	2	5	8	2	4	15	23
	小計		1	0	5	9	2	2	5	8	2	4	15	23
聴覚	県立聴覚支援学校		2	4	7	12	5	14	8	14			22	44
	県立聴覚支援学校福島校		4	9	5	10							9	19
	県立聴覚支援学校会津校		2	4	3	5							5	9
	県立聴覚支援学校平校		2	4	3	5							5	9
	小計		10	21	18	32	5	14	8	14			41	81
知的障がい	県立大笛生支援学校				28	78	12	38	24	102			64	218
	県立だて支援学校				17	44	8	30	9	37			34	111
	県立あぶくま支援学校				26	83	17	60	34	199			77	342
	県立西郷支援学校				19	59	6	22	12	52			37	133
	県立石川支援学校				9	31	8	28	16	80			33	139
	県立石川支援学校たまかわ校				13	38	7	20					20	58
	県立たむら支援学校				14	52	6	21	8	39			28	112
	県立会津支援学校				28	86	16	51	17	89			61	226
	県立猪苗代支援学校				6	9	4	11	5	20			15	40
	県立いわき支援学校				33	117	18	66	18	91			69	274
	県立いわき支援学校くぼた校								7	38			7	38
	県立ふたば支援学校				5	9	2	7	4	13			11	29
	県立相馬支援学校				12	42	5	24	7	40			24	106
	福島市立ふくしま支援学校				13	54	8	32	7	39			28	125
	福島大学附属特別支援学校				3	17	3	14	3	23			9	54
	小計				226	719	120	424	171	862			517	2005
肢体不自由	県立郡山支援学校				25	67	13	29	19	61			57	157
	県立平支援学校				10	23	11	27	11	28			32	78
	小計				35	90	24	56	30	89			89	235
病弱	県立須賀川支援学校				6	12	7	22	11	40			24	74
	県立須賀川支援学校医大校				3	6	2	3					5	9
	県立須賀川支援学校郡山校				3	4	4	8					7	12
	県立会津支援学校竹田校				1	0	2	2					3	2
	小計				13	22	15	35	11	40			39	97
合計			11	21	297	872	166	531	225	1013	2	4	701	2441

(2) 特別支援学級 (障がい別・児童生徒数)

管内	学校別	小学校								中学校								計
		弱視	難聴	知的	病弱・ 身体虚弱	肢体 不自由	言語	自閉症 ・情緒	小計	弱視	難聴	知的	病弱・ 身体虚弱	肢体 不自由	言語	自閉症 ・情緒	小計	
県北	学校数	0	1	64	1	1	0	56	123	0	0	33	1	1	0	31	66	189
	学級数	0	1	100	1	1	0	91	194	0	0	44	1	1	0	42	88	282
	児童生徒数	0	1	517	3	2	0	494	1017	0	0	228	2	2	0	189	421	1438
県中	学校数	0	1	77	0	1	0	62	141	0	1	40	0	0	0	39	80	221
	学級数	0	1	122	0	1	0	104	228	0	1	58	0	0	0	62	121	349
	児童生徒数	0	1	677	0	1	0	563	1242	0	1	282	0	0	0	318	601	1843
県南	学校数	1	2	27	0	2	0	20	52	1	1	13	0	1	0	12	28	80
	学級数	1	2	34	0	2	0	26	65	1	1	18	0	1	0	15	36	101
	児童生徒数	1	2	181	0	2	0	139	325	1	1	86	0	1	0	69	158	483
会津	学校数	0	0	42	1	3	0	33	79	0	0	20	1	1	0	17	39	118
	学級数	0	0	56	1	3	0	42	102	0	0	27	1	1	0	18	47	149
	児童生徒数	0	0	282	1	5	0	200	488	0	0	138	1	1	0	66	206	694
南会津	学校数	0	0	6	0	0	0	7	13	0	0	3	1	0	0	4	8	21
	学級数	0	0	6	0	0	0	9	15	0	0	3	1	0	0	4	8	23
	児童生徒数	0	0	13	0	0	0	46	59	0	0	6	1	0	0	12	19	78
相双	学校数	0	2	23	1	2	0	20	48	0	0	13	0	0	0	12	25	73
	学級数	0	2	31	1	2	0	26	62	0	0	15	0	0	0	12	27	89
	児童生徒数	0	2	154	2	2	0	113	273	0	0	59	0	0	0	31	90	363
いわき	学校数	2	1	44	2	2	0	41	92	0	0	21	0	0	0	21	42	134
	学級数	2	1	66	2	2	0	84	157	0	0	32	0	0	0	27	59	216
	児童生徒数	2	2	380	2	5	0	507	898	0	0	167	0	0	0	123	290	1188
計	学校数	3	7	283	5	11	0	239	548	1	2	143	3	3	0	136	288	836
	学級数	3	7	415	5	11	0	382	823	1	2	197	3	3	0	180	386	1209
	児童生徒数	3	8	2204	8	17	0	2062	4302	1	2	966	4	4	0	808	1785	6087

(3) 通級による指導 (障がい別・児童生徒数) ※巡回型については、本務校1 (学校数1、学級数1) で計上

管内	学校別	小学校								中学校								計
		弱視	難聴	言語 障がい	自閉症	情緒 障がい	L D	ADHD	小計	弱視	難聴	言語 障がい	自閉症	情緒 障がい	L D	ADHD	小計	
県北	学校数	0	0	4	6	0	4	6	20	0	0	0	1	0	1	2	4	24
	学級数	0	0	10	9	0	8	9	36	0	0	0	2	0	2	4	8	44
	児童生徒数	0	0	168	159	0	119	123	569	0	0	0	27	0	29	56	112	681
県中	学校数	0	1	2	6	2	2	13	26	0	0	1	1	0	0	3	5	31
	学級数	0	1	2	6	2	2	14	27	0	0	1	1	0	0	3	5	32
	児童生徒数	0	11	62	134	40	35	364	646	0	0	12	25	0	0	41	78	724
県南	学校数	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	学級数	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	児童生徒数	0	0	0	0	0	0	53	53	0	0	0	0	0	0	0	0	53
会津	学校数	0	0	1	1	0	2	2	6	0	0	0	0	0	1	2	3	9
	学級数	0	0	1	1	0	2	2	6	0	0	0	0	0	1	2	3	9
	児童生徒数	0	0	5	13	0	33	19	70	0	0	0	0	0	18	28	46	116
南会津	学校数	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	学級数	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	児童生徒数	0	0	0	0	0	0	65	65	0	0	0	0	0	0	0	0	65
相双	学校数	0	0	2	0	1	0	3	6	0	0	0	0	1	0	1	2	8
	学級数	0	0	5	0	2	0	5	12	0	0	0	0	1	0	1	2	14
	児童生徒数	0	0	120	0	34	0	95	249	0	0	0	0	17	0	4	21	270
いわき	学校数	0	0	2	1	1	1	2	7	0	0	0	1	0	2	0	3	10
	学級数	0	0	4	1	1	1	2	9	0	0	0	1	0	2	0	3	12
	児童生徒数	0	0	68	12	11	14	26	131	0	0	0	16	0	22	0	38	169
計	学校数	0	1	11	14	4	9	35	74	0	0	1	3	1	4	8	17	91
	学級数	0	1	22	17	5	13	41	99	0	0	1	4	1	5	10	21	120
	児童生徒数	0	11	423	318	85	201	745	1783	0	0	12	68	17	69	129	295	2078

(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数

年 度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
対象児童生徒数	80	69	58	55	54	49	50	43	42	39	43	38	33	34	36	36	32	30	29	29	31	24	24	28
担当教員数	36	41	33	33	35	27	27	27	27	30	29	24	19	27	32	18	18	18	18	20	16	18	24	

(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移

年 度	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
猶 予 者 数	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
免 除 者 数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

令和6年度の県立特別支援学校教職員の定数（補充教員は含まない）は、前年比5人増の1,634人となった。このうち、教諭等は、前年比6人増の1,405人である。

ア 新採用について

令和7年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、令和6年度に比べ、前年比16人減の133人であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は46人であり、46人が教諭として採用された。

イ 交流について

令和6年度人事異動は、例年通り4月1日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含め174人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は10人で、高等学校との交流（転入）は13人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

(2) 令和6年度県立特別支援学校教員異動・交流基準

ア 一般基準

- (ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡を図るように努める。
- (イ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。
- (ウ) 2親等以内の者（姻族を含む）は、原則として、同一校勤務を避ける。
- (エ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

イ 異動基準

- (ア) 勤続年数による基準
 - 次に該当する者は、異動の対象とする。
 - 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）
 - 平成21年度以降採用の者で異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）
 - 同一校に8年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

(イ) 地域による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表1のとおり中通り、会津、浜通りの3地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

ただし、平成20年度以前の採用者については、平成30年度までは旧基準（別表2）を準用し、15年以内に2地区及び2障がい以上の学校に勤務した者は、この規定を満たす者とみなす。

ウ 交流

特別支援学校、小学校、中学校及び高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校、市町村公立小・中学校及び県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については、原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として3年から8年とする。

別表1 県立特別支援学校地域別学校分類表

地域	地 区	学 校	
中通り	県 北	視覚支援	聴覚支援（福島）
		大笛生支援	須賀川支援（医大）
		だて支援	
県 中	聴覚支援	郡山支援	
	あぶくま支援	須賀川支援	
県 南	須賀川支援（郡山）	たむら支援	
	西郷支援	石川支援	
会 津	石川支援（たまかわ）		
	聴覚支援（会津）	会津支援	
浜通り	会津支援（竹田）	猪苗代支援	
	いわき	聴覚支援（平）	平支援
	いわき支援	いわき支援（くぼた）	
相 双	富岡支援	相馬支援	

別表2 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校分類表

群分類 障がい 地区	I 群		II 群		
	知的障がい 教育を主と する学校	視覚障がい 教育を主と する学校	聴覚障がい 教育を主と する学校	肢体不自 由教育を主と する学校	病弱教育 を主とす る学校
県 北	大笛生支援 だて支援	視覚支援	聴覚支援 (福島)		須賀川 支援 (医大)
県 南	あぶくま 支援 石川支援 石川支援 (たまかわ) たむら支援 西郷支援		聴覚支援	郡山支援	須賀川 支援 須賀川 支援 (郡山)
会 津	会津支援 猪苗代支援		聴覚支援 (会津)		会津支援 (竹田)
いわき	いわき支援 いわき支援 (くぼた)		聴覚支援 (平)	平支援	
相 双	富岡支援 相馬支援				

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) II群内の学校のみの経験者は、I群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) I群の学校に勤務している者又は勤務した者で、2障がいの経験を有していない者は、II群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではない。

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

第7次総合教育計画で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第7次総合教育計画では、次の基本的な方針のもとに、具体的な取組を示し、その充実に努めた。

○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、福祉、保健、教育、労働等の関係機関の連携を深めることにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

○ 具体的な取組

- ・ インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、多様な学びの場や交流及び共同学習の充実と整備
- ・ 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用や引継ぎ
- ・ 質の高い授業と合理的配慮の提供
- ・ 医療的ケアを必要とする児童生徒の学びの場の環境整備
- ・ 高等学校における通級による指導の充実と交流及び共同学習の推進
- ・ 特別支援教育に関する教員の専門性の向上

(2) 指導組織

課長、主幹兼副課長1名、主幹1名、主任管理主事1名、管理主事4名、主任指導主事1名、指導主事5名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

(3) 学校教育指導の重点

特別支援学校においては、特に以下の点に重点をおいて指導に努めた。

- ① 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実
児童生徒一人一人の実態と教育的ニーズの的確な把握に努め、家庭や医療、福祉、労働等の関係機関と連携した「個別の教育支援計画」の作成と活用について、教育支援協議会や体制促進協議会等の各種会議で周知に努めた。
- ② 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善
学習指導要領を踏まえた各教科等の指導を通して、資

質・能力の3つの柱の育成がバランスよく実現できるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を取り入れた授業の実施や改善を行った。

③ 言語環境の整備と言語活動の充実

移動図書館車での巡回貸し出しや児童生徒に本に親しむ機会を設け、読書の楽しみを感じてもらう活動を実施した。また高等部生徒を中心に各種弁論大会等への参加など、教科学習と関連づけながら言語活動の充実に取り組んだ。

④ 自立活動の充実

児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質・能力を養うために、個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、自立活動の内容項目を踏まえた指導目標と指導内容を設定して「個別の指導計画」を作成している。個々の課題や指導目標を担当者間で共有し、計画的・組織的な自立活動の指導を行った。

⑤ 職業教育の充実

「夢に向かってテクノチャレンジ事業」では、高等部を設置する県内全ての特別支援学校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。また、「特別支援学校における就労推進事業」では、生徒の就職率とその定着率の向上を目指し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者による進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携した支援体制の構築を図った。

⑥ 生徒指導の充実

児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、家庭や関係機関との連携に努めた。また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協議会を年2回（5月と11月）開催し、本県の生徒事故の現状や課題の共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努めた。

⑦ 交流及び共同学習の推進

近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流及び共同学習を通じ、児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重する心を育むことに努めた。

⑧ 特別支援学校のセンター的機能の發揮

各地区の特別支援学校地域支援センターのセンター的機能を活かし、県内16箇所で研修会を実施し、適切な支援を行うことができるよう専門性の向上を図るとともに、地域の学校等との連携体制の構築に努めた。

④ 教員の資質と指導力の向上

ア 「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」

事業担当者会議の開催

事業を推進する指導主事が参考し、各事業実施状況等の報告及び課題についての協議を行った。また、各教育

事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指導の重点等についても研究協議を行い、各教育事務所域内の特別支援教育の充実に向けた指導業務の円滑な推進を図った。

イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

ウ 特別支援学校初任者研修、二年次教員フォローアップ研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、教科等指導研修や社会体験研修等を行った。

エ 特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員5名を国立特別支援教育総合研究所の専門研修へ派遣した。

⑤ 就学相談の推進

学校教育法施行令の一部改正による就学先決定の仕組み等の周知を図るため、市町村教育委員会就学事務担当者と公立中学校管理職を対象に教育支援協議会を県内7か所で開催した。また、市町村の就学先決定における相談の充実については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期からの一貫した支援の充実に努めた。

⑥ 特別支援教育の推進

ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業

「令和6度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（16校）に、看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

視覚支援学校、聴覚支援学校、聴覚支援学校会津校、大笛生支援学校、だて支援学校、郡山支援学校、あぶくま支援学校、須賀川支援学校郡山校、西郷支援学校、石川支援学校、会津支援学校、会津支援学校竹田校、平支援学校、いわき支援学校、ふたば支援学校、相馬支援学校

【令和6年度医療的ケア実施運営協議会委員】

氏名	委嘱時の職名
◎森田 浩之	県総合療育センター・所長
○生井 良幸	太田西ノ内病院・小児科部長
古橋 知子	福島医科大学看護学部・准教授
八島 裕貴	保健福祉部障がい福祉課・副主査
後藤 摂	こども未来局児童家庭課・主任主査
五十嵐 登美	県特別支援教育センター・所長
荒川 和裕	社会福祉法人南東北事業団 障がい者支援施設南東北さくら館 所属長兼サービス管理責任者
上野 優子	郡山支援学校・保護者
松永 日止志	視覚支援学校・教頭
齋藤 隆康	聴覚支援学校・教頭
糀山 貴央	聴覚支援学校会津校・教頭
佐藤 智	大笛生支援学校・教頭
小野 純子	だて支援学校・教頭
小河 仁	郡山支援学校・教頭
持館 康成	あぶくま支援学校・教頭
石井 あかね	須賀川支援郡山校・分校長
小山田 幸江	西郷支援学校・教頭
佐々木 孝幸	石川支援学校・教頭
村岡 有加里	会津支援学校・教頭
江見 浩二	会津支援学校竹田校・分校長
加藤 賢一	平支援学校・教頭
菅野 亨	いわき支援学校・教頭
伊藤 秀之	ふたば支援学校・教頭
石垣 真樹子	相馬支援学校・教頭
赤間 達也	福島高等学校・教頭
井出 しのぶ	平支援学校・看護師
齋藤 しのぶ	郡山支援学校・看護師

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

- 第1回 令和6年 6月 20日
- 第2回 令和6年 11月 20日

【会議における検討事項】

- 緊急時の対応について
- 医療的ケアサポート会議について

【看護師研修会の開催】

- 年1回の医療的ケア実施校看護師研修会を郡山支援学校においてオンラインで実施した。12～1月にオンライン情報交換会を実施した。

イ 「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」

による市町村における支援体制整備の促進

県内7地区において「特別支援教育体制促進協議会」

を年2回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や各園・学校等における特別支援教育の充実のための具体的な方策について協議するとともに、相談体制の整備や相談支援ファイルの活用の促進に取り組んだ。

ウ 地域支援体制の充実

県立特別支援学校が、地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を發揮し、小・中学校等や市町村教育委員会のニーズに応じた相談や研修等の支援を実施した。

相談・研修件数は3,082件であった。

また、県内の各教育事務所が地域支援のコーディネーターとなり、相談支援チームを編制し、市町村や小・中学校等への支援の在り方や具体的な方策について協議するとともに、地域の小・中学校等における特別支援教育の充実に向けた支援を実施した。

エ 「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい等のある生徒の支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「LD等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、令和6年度は県立高等学校13校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ 障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立中学校管理職を対象に、「教育支援協議会」において、就学先決定の流れや特別な支援を必要とする生徒の支援等について説明をし、障がい児の一貫した支援に努めた。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実を図った。

2 現職教育

(1) 教員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教員の資質向上に努めた。

名 称	期 日	期間	会 場	人 数	対 象
特別支援学校教育課程運営改善講座	8月20日	1日	特別支援教育センター	26	特別支援学校教員
特別支援学級等新任担当教員研修会【共通研修】	4月17日 4月23日	1日	環境創造センター	159	特別支援学級担当教員 通級指導教室担当教員
【地区別研修】	10月15日 ～ 10月25日		各地区	114	特別支援学級担当教員
通級指導教室担当教員研修会	7月9日	1日	環境創造センター	38	通級指導教室担当教員
名 称	期 日	期間	会 場	人 数	対 象
特別支援学校5年経験者研修	6月7日 10～11日 6月12日 ～14日	3日	特別支援教育センター	52	特別支援学校教員
特別支援学校中堅教諭等資質向上研修【共通研修】 【教科等指導研修】	6月26日 ～28日 1月14日 ～15日	3日 2日	各所属校 特別支援教育センター 特別支援教育センター	26 26	特別支援学校教員 特別支援学校教員

特別支援学校初任者研修

名 称	期 日	期間	会 場
宿泊研修	一次研修	7月23日～25日	3日 各所属校 特別支援教育センター
	二次研修	2月4日 ～2月6日	3日 各所属校 特別支援教育センター
一般研修	4月10日、11日	2日	各所属校
カウンセリング研修	6月5日、6日	2日	環境創造センター
地区別研修	講習会研修会等参加研修	各校で実施	1日 各地区内の該当学校等
	他校参観研修	各校で実施	5日 各地区内の該当学校等
	企業等体験研修	各校で実施	4日 各地区内の該当学校等
教育課程別研修	9月4日	1日	初任者配置校
学部別研修	11月6日	1日	初任者配置校
	年間150時間以上		各所属校

(2) 特別支援教育教員専門研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修2か月）

令和6年度は、Web会議システム（Zoom）を用いた同時双方向通信によるオンラインと宿泊を組み合わせて研修を実施し、教員としての資質向上を図った。

氏 名	職名	学校名	コース等	期 間
小檜山 泰典	教諭	大笛生支援学校	知的障害教育専修	9月10日 ～11月15日
今井 葵加里	教諭	会津支援学校	知的障害教育専修	9月10日 ～11月15日
小松田 隆介	教諭	視覚支援学校	視覚障害教育専修	1月8日 ～3月14日
菅野 茉由子	教諭	聴覚支援学校	聴覚障害教育専修	1月8日 ～3月14日
金田 亮一	教諭	郡山支援学校	肢体不自由教育専修	1月8日 ～3月14日

(3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校（義務教育学校を含む。）の特別支援教育コーディネーターに対し、合理的配慮や校内支援体制についての研修を通して、インクルーシブ教育システムの理解を深め、特別支援教育に関わるコーディネーターとしての実践力の向上を図った。

(4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、合理的配慮や校内支援体制についての研修を通して、インクルーシブ教育システムの理解を深め、特別支援教育に関わるコーディネーターとしての実践力の向上を図った。

(5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの役割や地域のニーズ、有効なコーディネーターの在り方等について学び合う研修を通して、特別支援教育コーディネーターとしての実践力の向上を図った。

3 教育課程

(特別支援学校教育課程運営改善講座)

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

地区	期日	会場	人 数	参加対象
県内	8月20日	特別支援教育センター	26	特別支援学校の教務主任等

4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回程実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるよう、1回はスクーリング（登校学習）を実施した。

さらに、大 bambi 支援学校では、高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

校名	児童生徒数	学級数						児童生徒数						スクーリング 児童生徒数							
		小学部	病院訪問	中学部	病院訪問	高等部	病院訪問	学部計	病院訪問計	小学部	病院訪問	中学部	病院訪問	高等部	病院訪問	学部計	病院訪問計	小学部	中学部	高等部	計
大 bambi 支援学校	1				1	1	2	1	2				1	1	3	1	2		1	3	
だて支援学校	1		1		1		3		1		2		1		4			1	2	1	4
郡山支援学校	2		1		1		4		3		1		1		5			3	1	1	5
須賀川支援学校郡山校		1		1				2													
会津支援学校	1		1				2		2		1				3			2	1		3
平支援学校	1		1	1	1	1	3	2	3		3	1	1	1	7	2	3	4	2	9	
相馬支援学校	2						2		3						3			3			3
合計	8	1	4	2	4	2	16	5	14		7	1	4	2	25	3	14	8	5	27	

5 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達の段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導支援に努めた。

(2) 進路指導

ア 夢に向かってテクノチャレンジ事業

(ア) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 17 校

福島大学附属特別支援学校

福島市立ふくしま支援学校 計 19 校

(ウ) 実施状況

a 特別支援学校作業技能大会の開催

- 期日 7月31日（水）
- 場所 ビッグパレットふくしま

b 実施部門

- 作業技能検定部門
ビルクリーニング、喫茶接遇サービス、パソコンデータ入力、店舗販売（品出し）
- 作業製品評定部門
あん摩・鍼灸評定部門

c 外部評価の活用

- 各作業技能検定部門に関する助言
- 作業技能検定部門の審査

イ 特別支援学校における就労推進事業

(ア) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることできる人材育成を充実させることにより、卒業生に占める就職率と定着率の向上を図る。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 17 校

福島大学附属特別支援学校

福島市立ふくしま支援学校 計 19 校

(ウ) 実施状況

a 進路支援チーム会議の実施

- 特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議
- 障がい者就業・生活支援センターとの連携強化

b 移行支援機能の充実

- 関係機関と連携した、早期からの移行支援会議の実施
- 在学中から卒業後までの長いスパンでの支援

c 企業の求める人材育成

- 作業学習の内容や手法の見直し
- ジョブコーチや企業等からの指導助言
- 「障がい者就職面接会」への参加
- 「特別支援学校早期訓練コース」の活用

d 外部評価の活用

- 「特別支援学校作業技能大会」における作業技能検定の活用
- 「障がい者技能競技大会」への参加

6 特別活動

(1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業者数

学部 障がい	幼稚部	小学部	中学部	高等部	合 計
視覚障がい			1	4	5
聴覚障がい	10	4	7	7	28
知的障がい		109	121	279	509
肢体不自由		22	21	26	69
病 弱		6	15	13	34
計	10	141	165	329	645

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

開催日 月 1 日	3 月 1 日	3 月 3 日	3 月 7 日	3 月 10 日	3 月 11 日	3 月 12 日	3 月 13 日	3 月 17 日	3 月 18 日	3 月 19 日
学部 日										
幼稚部					1	1				1
小学部					1	3	3	9	3	
中学部			1		2	2	3	8	3	
高等部	1	4	4	1	3	1			1	2

(2) 修学旅行

行き先 日数 学部	行き先					日数			人 数	
	県 内	東 北	関 東	関 西	北 海 道	日 帰 り	一 泊 二 日	二 泊 三 日		
小学部	7	6	4	0	0	15	3	0	0	138
中学部	0	2	14	0	0	0	10	7	0	144
高等部	0	0	9	8	1	0	0	16	2	318

7 学校訪問

県立特別支援学校

5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修の研究授業日に学校訪問を実施した。

No.	訪問日	学校名
1	9月17日	平支援学校
2	10月3日	大笛生支援学校
3	10月15日	だて支援学校

8 県立学校学校教育指導委員

氏名	職名	所属校
矢吹 淳	教諭	視覚支援学校
淺田 初恵	教諭	聴覚支援学校
武田 良	教諭	大笛生支援学校
鈴木 亜沙雄	教諭	だて支援学校
渡邊 幸治	教諭	郡山支援学校
大竹 舞香	教諭	会津支援学校竹田校
長岡 麻衣	教諭	平支援学校
目黒 由美子	教諭	たむら支援学校

9 就学相談・支援

(1) 福島県特別支援教育推進会議

福島県特別支援教育推進会議委員

委員	職名
学識見識者	大学教授
関係機関	福祉関係代表
関係機関	県総合療育センター所長
関係機関	県保健福祉部障がい福祉課長
関係機関	県保健福祉部こども未来局児童家庭課長
関係機関	県商工労働部雇用労政課長
教育関係	小学校長会代表
教育関係	中学校長会代表
教育関係	高等学校長会代表
教育関係	特別支援学校長会代表
教育関係	県特別支援教育センター所長
教育関係	県教育庁特別支援教育課長

(2) 教育支援協議会

ア 期日及び会場

地 区	期 日	会 場	参 加 者 数
県 北	6月11日	パルセいいざか	48
県 中	5月27日	郡山合同庁舎	38
県 南	5月29日	白河合同庁舎	27
会 津	6月5日	塩川公民館	46
南会津	5月30日	御蔵入交流館	11
相 双	6月27日	万葉ふれあいセンター	32
いわき	6月18日	いわき合同庁舎	39

イ 参加者

公立中学校管理職 各市町村教育委員会

ウ 説明及び協議

(ア) 説明

「特別な支援が必要な児童への支援のあり方について」

(イ) 説明及び協議

「自校における特別な支援が必要な児童への支援の取組について」

10 教科用図書

(1) 教科用図書事務説明会

- ア 開催日時・場所
令和6年6月6日・オンライン
イ 参加者
各教育事務所 各市町村教育委員会
特別支援学校教科書担当者

(2) 学校教育法附則第9条に規定する一般図書の展示期日及び会場

6月 3日～6月 5日	相馬支援学校
6月 7日～6月 11日	福島大学附属特別支援学校
6月 12日～6月 14日	だて支援学校
6月 18日～6月 20日	あぶくま支援学校
6月 24日～6月 25日	西郷支援学校
6月 27日～6月 28日	石川支援学校
7月 2日～7月 4日	平支援学校
7月 9日～7月 11日	会津支援学校
7月 17日～7月 19日	南会津町役場
7月 23日～7月 25日	特別支援教育センター

11 教育研究団体

(1) 令和6年度福島県特別支援学校長会役員

役職名	氏名	所属校
会長	西村 則昌	聴覚支援学校
副会長	西牧 辰典	大笛生支援学校
副会長	永峯 秀桐	福島市立ふくしま支援学校

(2) 令和6年度福島県特別支援学校教頭会役員

役職名	氏名	所属校
会長	齋藤 顕	須賀川支援学校
副会長	金澤 広司	石川支援学校たまかわ校
副会長	佐々木 孝幸	石川支援学校

(3) 福島県特別支援教育研究会

ア 組織

役職名	氏名	所属校
会長	永峯 秀桐	福島市立ふくしま支援学校
副会長	西村 則昌	聴覚支援学校
副会長	大内 利典	郡山市立朝日が丘小学校

イ 事業の概要

事業名	期日	会場	概要
役員会	5月 17日	郡山支援学校	事業報告、事業計画について
	2月 7日	県特別支援教育センター	行事等の確認

(4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役員

役職名	氏名	所属
会長	小檜山 宗浩	福島大学特任教授
副会長	齊藤 義人	元福島商業高等学校長
副会長	杉山 裕恵	元福島県立聴覚支援学校長
理事	小野 寛	県北支部長
理事	道下 和幸	県中支部長
理事	小河原 健一	県南支部長
理事	齋藤 秀美	会津支部長
理事	只野 裕一	相双支部長
理事	大谷 明	いわき支部長
理事	西村 則昌	本部事務局長
監事	高屋 隆男	元福島県立聾学校長
監事	五十嵐 登美	県特別支援教育センター所長
顧問	柳沼 穎壹	元福島県立あぶくま養護学校長

イ 事務局

(ア) 本部事務担当

聴覚支援学校	校長	西村 則昌
聴覚支援学校	教頭	齋藤 隆康
聴覚支援学校	教頭	田中 聰一郎
聴覚支援学校	事務長	宍戸 佐壽

(イ) 支部

支部	事務局校	支部	事務局校
県北	大笛生支援学校	会津	会津支援学校
県中	郡山支援学校	相双	相馬支援学校
県南	西郷支援学校	いわき	平支援学校